

研究主題設定の理由

本校の児童は、学習の課題に真面目に取り組み、基礎的な練習問題などもよくできます。しかし、問題解決的な学習ではどうしたらよいかわからず戸惑う児童も多く、積極的に発表したり表現したりすることを躊躇する傾向がありました。

「教育に関する3つの達成目標」の本校における検証結果からも、基礎的・基本的な学力を着実に身に付けていることが分かりました。「埼玉県小・中学校学習状況調査」や「全国学力学習状況調査」の結果を見ても、基礎的・基本的な知識を問う問題はよく解答できています。しかし、国語における「書くこと」や他教科の記述式の問題の状況からは、読み手に分かる文を書くことに課題が見られました。

国語に関わるアンケートを児童に実施したところ、「国語が嫌い」と回答する児童の多くが、「作文を書くことが嫌い」「書くことが分からない」「書いてあることを読み取ることが分からない」「自分で考えて書くのが嫌い」などを理由にあげ、考えて書くことに苦手意識をもっていることが分かりました。国語が嫌いでない児童にとっても、書くことや発表・意見を述べることによって自分を表現することが好きでない実態があることが分かりました。

このことから、『「書くこと』をとおした表現力の育成』を研究主題とし、国語の授業研究に取り組むことにしました。

研究の基本的な考え方

(1) 「書く」よさを知る機会を増やす

これまで、俳句の暗唱と創作に全校で取り組んできました。また、全校朝会での校長先生の話をつりかえって書く活動を続けています。このことで、話の要点を分かりやすく書く力を身に付けさせることができると考えました。

スキルアップタイムで視写に取り組みました。視写することによって書き方を確かめることができ、書くことに対する抵抗を減らせると考えました。作文においては、発達の段階に応じた原稿用紙の使い方の手本を作り、文章の書き方を身に付けさせるようにしました。

授業においては、思考を促すワークシートを工夫することで、伝えたいことを明確にして文章を書けるようになると考えました。

(2) 語彙を増やす指導

教科書のよい表現を振り返ったり、友達のよい表現を見合ったりすることで、自分の語彙を増やすことができると考えました。

日頃から分からない言葉は辞書で調べさせ、スキルアップの活動にも意味調べや短文づくりを取り入れました。使わせたい言葉を集めた語彙集をつくり、発達の段階に応じた表現ができるようにさせました。

(3) 目的意識をもつ学習活動

授業のはじめに学習の流れを提示し、めあてをもって学習課題に取り組ませることで児童自身が学習の主体であることを意識させるようにしました。このことによって、受け身の学習ではなく、能動的に学習に取り組むことができるようにしました。

書く活動では、誰に伝えたいのか目的意識を明確にすることで、思いを深めたり表現を工夫したりしながら表現活動を行えるようにしました。作文を書く過程から友達との関わりをもたせ、互いを認めたり助言したりさせながら表現のよさに気付かせるようにしました。

学習した結果が次時に生かせるように、本時の学習の振り返りをさせました。この学習の振り返りは、1時間の学習において学習した内容を確認・意識することで自分自身の学びに立ち返る大切な時間となります。これを積み重ねていくことで、自分の考えに気付き、身に付けたい力を確実に付けていけると考えられます。授業の終わりのあいさつでは、本時の授業で学んだ事柄を児童のこぼれ話で語らせることで、学習のまとめを共有することができると考えました。